

平成 21 年度 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業
第 1 回 中国ブロック クラブミーティング 2009

開催日：2009 年 6 月 7 日（土）13：15～17：00

会 場：鳥取県米子市「国際ファミリープラザ」

【はじめに】

2009 年 6 月 7 日(日)に鳥取県米子市の「国際ファミリープラザ」2 階会議室において第 1 回中国ブロッククラブミーティング 2009 が開催された。

本年度第 1 回目は、中国ブロック 5 県から創設支援を受けている 1 年目 15 クラブ、2 年目 9 クラブの併せて 24 クラブ計 42 名のクラブ代表者・担当者の参加があった。また、各県のクラブ育成アドバイザーおよび体育協会関係者など 16 名を交え情報提供ならびに情報交換が活発に行われた。

開会に先立ち開催県の(財)鳥取県体育協会川ロー彦専務理事から参加者に対して歓迎の挨拶があった。引き続き主催者である(財)日本体育協会生涯スポーツ推進部クラブ育成課根本光憲課長から挨拶ならびに総合型クラブ育成推進事業の概要説明が行われた。

【情報提供】

今回の中国ブロック・クラブミーティングでは、「スポーツクラブづくりの楽しさややり甲斐を共有する」ことをテーマに情報提供とグループディスカッションを設定した。情報提供は、島根県「しんじ湖スポーツクラブ」の持田さん、山口県「SA スポーツクラブ」の藤川さん（中国ブロック企画班員）、岡山県「きよねスポーツくらぶ」の米谷(筆者：中国ブロック企画班員)の 3 名である。



まず最初に、「しんじ湖スポーツクラブ」についての発表をいただいた。当クラブは、平成 14 年の設立から現在まで、『いかこい！やらこい！たのしまこーい！』をモットーに地域の子どもから高齢者まで「だれもが・いつでも・気軽に」スポーツを楽しめ「健康づくり」「生きがいつくり」「仲間づくり」の場を提供し、スポーツによる元気な町づくりを目指すべくさまざまな活動に取り組んでいる。当初クラブを運営していく上で色々な失敗や困ったことがあったが、それらを通して得たことも多数あった。例えば、地域の人々の優しい声かけや気遣い、情報の提供や教室運営への協力などである。地域の人々がクラブ運営に次第に関わることで事業も拡大し、地域の生の声が聞きながら「地域とともに歩んでいこう！」とい

うスタンスが確立した。このように状況からクラブが一層発展していく上で、行政との良いパートナーシップの構築やNPO法人化なども有効であったとのことであった。

次に、SA スポーツクラブについての発表をいただいた。SA スポーツクラブは、平成 10 年にフットサルとサッカーを中心に設立され、12 年にバレーボール、14 年に硬式野球、20 年にバドミントンと次第に種目数を増やしている。特にフットサルにおいては、年齢や志向によるディビジョン制をとっている。これと並行してNPO法人YANAIスポーツ振興を平成 17 年に設立し、二つの組織を「ス



スポーツ振興連絡会」によりつなぎ連携できるようにしている。NPO 法人の方は、市施設の指定管理を受託し数多くのスポーツ施設の管理をしつつ各種スポーツ教室・イベントを企画する。当クラブは、まちづくりの人材・有志により設立された。クラブハウスの設置と運営は自前で、またクラブ運営に係わる費用もクラブ及び地域の企業からの寄付などにより行っている。行政に頼ることなく、自分たちで無理のない運営を会員の共通理解により進めている。

最後は、きよねスポーツくらぶについての発表であった。当クラブの説明の前に総合型地域スポーツクラブが「盟約集団」であること、そしてそれが意味するのは地域のさまざまな人々がクラブのメンバーであることに誇りを持ち、少しずつエネルギーを出し合いながら快適環境を作り出すべく活動することであることを確認した。また、クラブの必要性を“Private(私的)”と“Public(公的)”の二つの視点から検討し、時間・空間・仲間の「3つの間」をクラブに整えることなどが提案された。これらを踏まえ、地域住民による構想と手作りのクラブハウス、そのクラブハウスを 12 時間/日・



360 日/年開館、スポーツ以外の組織・団体とのコラボなど、きよねスポーツくらぶにおける実践例が紹介された。そして、魅力あるスポーツクラブであるためにはクラブが地域における「世代間の交流の場」「知の集合体」「組織・情報の交差点」「Private & Public の活力の源」となり地域住民が集える居場所でなくてはならないと締めくくった。

【グループディスカッション】

情報提供の後、創設支援 1 年目と 2 年目のクラブに別れてグループディスカッショ

ンを行った。昨年度の第1回クラブミーティングの現状から、1年目のクラブにはまず総合型のイメージづくりに重点を置き、まず（財）日本体育協会2008年作成の「総合型地域スポーツクラブのある町」の視聴を15分程度行った。その後、クラブ創設にあつたてのわからない点や課題・問題についてのディスカッションを6つのグループに分かれて行った。創設支援2年目のクラブについては、情報提供後すぐにそれぞれのクラブが持つ課題や問題点をもとにグループディスカッションを行った。



各クラブが抱えている課題や問題点はさまざまであったが、概ね共通していたのは、地域の協力体制、施設不足、会費、少子高齢化や市町村合併によりクラブ創設が困難であるという地域の状況に関するものであった。クラブによっては地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を参考にしてクラブ育成の方向性を検討しているものも見られた。クラブ創設の中心となる人々や組織（体育指導委員、地区体育教会、スポーツ少年団、各種競技団体など）、目的などクラブによりさまざまであったが、将来を見通しての設計図を構築していく上で中国ブロックの他のクラブの状況を把握し、ディスカッションすることの意義は非常に大きかった。

【まとめ】

創設支援1年目と2年目では抱えている課題や問題点も傾向が異なり、特に1年目のクラブはクラブ創設に向けて活動を開始して間もない状況にある。したがって、総合型地域スポーツクラブのイメージやそれを地域で作り上げていくことの魅力などが参考になったようである。また、2年目のクラブも含め各々がいろいろな課題や問題を持っていること、そしてそれを克服しようと活動していることなどを共有できたことにより、今後の各地域での活動のエネルギーになったように感じた。

ただ、2010年を間近に控え、今までなかなかクラブづくりに踏み出せなかった地域からの参加者や担当者がこれから増えることも事実である。今後、それぞれの地域のもっているクラブづくりに対するハードルをクリアしていく上で、地域とその住民が抱えている問題を「スポーツからアプローチ」と言うよりは、「スポーツを含めた地域の視点からアプローチ」し、自らの力で克服していくスタンスが地域はもちろん行政に対しても求められるのではないだろうか。そのためにも、はじめから型にはめるのではなく、形成の過程で地域の状況に合致したクラブづくりを柔軟な発想で行っていく必要がある。

（報告：中国ブロック地方企画班 米谷正造）